

三宅島

三宅島は東京から南へ約180km。伊豆諸島のほぼ中央に位置する島で、直径8km、周囲38.5km、面積55.26kmのほぼ円形をした火山島です。気候は温暖多雨、年降水量は約3,000mm、年平均気温が約18℃の海洋性気候です。人口は2,300人強です。

東京から180kmの別世界。火山島三宅島へようこそ！

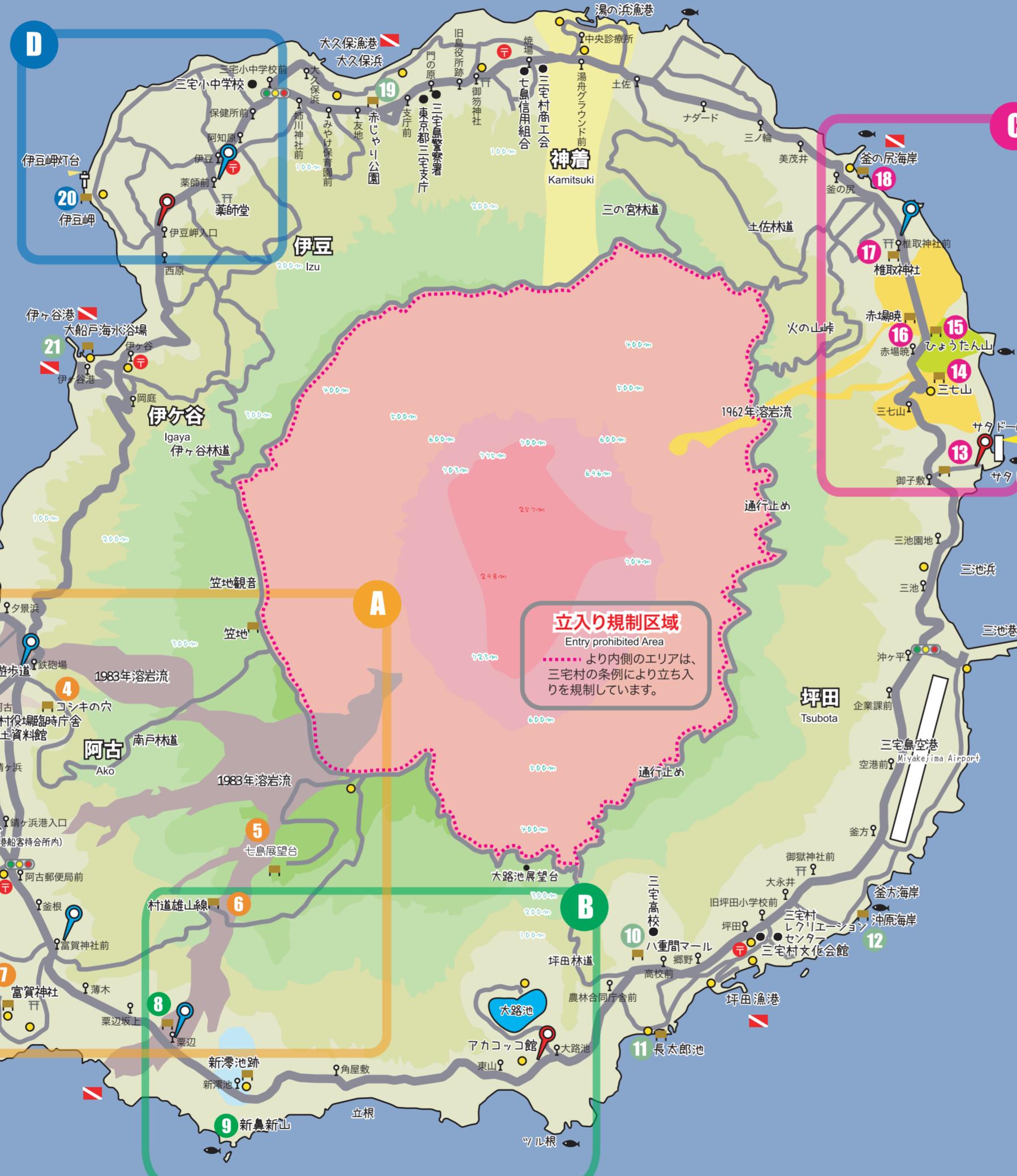
GEO
MIYAKEJIMA

- ジオスポット看板
- ダイビングポイント
- 釣り場
- バス停
- ビューポイント
- トイレ
- ウォーキング スタート地点
- ウォーキング ゴール地点

0m 500m 1000m 1500m 2000m



D



15 Mt.Hyoutanyma
ひょうたん山

16 Mt.Sanshichiyama
三七山

17 Satado-misaki Cape
サタドー岬

18 Okibara-kaigan Beach
沖原海岸

19 Tairoike Observatory
大路池展望台

20 Tairoike Pond
大路池



三宅島ジオ
MAP
体感!火山島
三宅島を歩こう!

写真提供:三宅島観光協会



アカコ館
入館料:200円
(中学生以下および65歳以上は無料)
閉館日:月曜日
開館時間:9:00~16:30



ふるさとの湯
利用料:500円
(小学生250円/5才以下無料)
休館日:水曜日(8月は休無)
営業時間:11:00~21:00 4~9月
11:00~20:00 10~3月

三宅島へのアクセス

■海路
<大型客船>東海汽船
竹芝桟橋発 22:30 → 05:00 三宅島着
三宅島発 13:45 → 19:50 竹芝桟橋着
※詳細は下記WEBサイトをご覧ください。
<https://www.tokaikisen.co.jp>

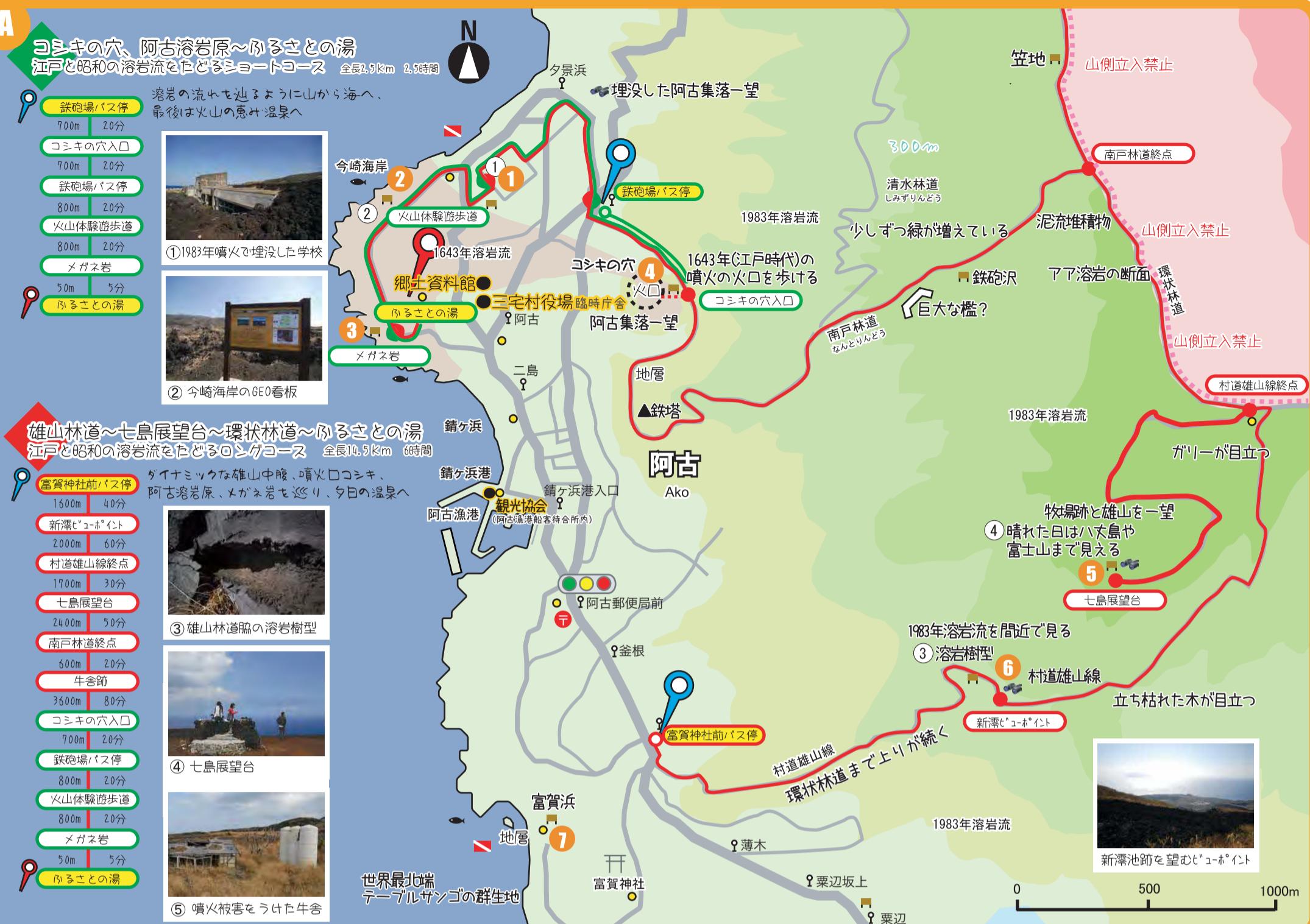
■空路
<飛行機>NCA 新中央航空
調布飛行場 ←→ 三宅島
※詳細は下記WEBサイトをご覧ください。
<https://www.central-airco.jp>

■船
※船、飛行機共に天候不良等で欠航や時間変更する事がありますので、事前に各社にご確認ください。

三宅島島内での連絡先

■事故発生時 三宅島警察	110番	■救急時 三宅村消防本部	119番	三宅村中央診療所	04994-2-0016
■ご案内 東海汽船 三宅島空港 ヘリポート(三宅島空港内)	04994-5-0221 04994-6-1131 04994-2-1422 04994-6-0006 04994-8-5720	三宅村役場 郷土資料館 アカコ館 ふるさとの湯 三宅村レクリエーションセンター	04994-5-0981 04994-5-1454 04994-6-0410 04994-5-0426 04994-8-5682		





□体感！火山島 三宅島を歩こう！

GEOとは地球や地上を意味します。伊豆諸島はあべて火山島ですが、の中でも三宅島は、伊豆大島と並んで、過去多くの噴火活動があった活発な火山島です。

三宅島を巡ると、過去の噴火跡をいたるとこで見ることができます。生きている火山の驚異、すばらしさ、美しさをたくさんありました。

■最近150年間の噴火
三宅島では、少なくとも11世紀以降に15回の噴火が記録されています。その噴火は20年から60年の周期で
おこっていて、最近150年間では、1874年、1940年、1962年、1983年、2000年と5回噴火しています。

- ▲ 1874年噴火（明治7年）
島の北部の山腹から割れ目噴火、土佐・砲台方面に大量のスコリアを降下させました。（三ノ宮）
その後溶岩が流出して、集落を埋没させて海中に達しました。活動は2週間続いて、1名行方不明。
- ▲ 1940年噴火（昭和15年）
北東部の山腹から割れ目噴火が発生して、赤場喰瀬を埋め、海中噴火により「ひょうたん山」が形成されました。その後山頂噴火に移行。活動はほぼ1ヶ月続き、死者11名。
- ▲ 1962年噴火（昭和37年）
北東部の山腹から割れ目噴火、三七山などいくつかのスコリア丘を形成。
噴火は30時間で終息するも、有感地震が頻発し学童が避難しました。人的被害なし。
- ▲ 1983年噴火（昭和58年）
南西山腹より割れ目火口が開口、溶岩が3方向に流れ出せり、西方に流れたものは阿古集落に流入して小中学校をはじめ約40棟を埋没・消失させました。割れ目火口が海岸付近に達した南部では、激しいマグマ水蒸気爆発で、新瀬池を吹き飛ばし、新鼻新山を形成しました。
約15時間で終息し人的被害なし。
- ▲ 2000年噴火（平成12年）
2000年6月、何の前触れもなく噴火活動が始まりました。6月後半に活動が始まり2ヶ月間は大きな噴火や泥流が出てたびに島内での避難が繰り返されました。そして9月に入ると島民全員が島外へ避難するという異例の事態となり、帰島まで1年半に及び避難生活が続きました。

■ 三宝島の「少しよく使う用語

- ▲マグマ水蒸気爆発
地下水や海水などとマグマなどが接触する事で、大量の水蒸気が急激に発生させ爆発を起こす現象。
- ▲山腹割れ目噴火
山腹での複数の火口や一連の割れ目から溶岩が放出される噴火の事。流動的に富む玄武岩質溶岩を流す場合が多い。

▲溶岩樹型

流動のう高温の溶岩が樹木を取り囲みて固まつて後、燃焼しに木の形がそのまま空洞となつてゐる。

降水による集約した水の流れによって地表面が削られてできたV字状の地形。

火山の噴出物の一種で直径2mm以下の大きさのもの。主にマグマが発泡してできる細かい破片。

主に火山灰を噴き出す。爆発的な噴火で破壊された岩片が空中を飛んで落下した岩。

▲火山彈
（左）「火」字的「火」字，飛行火炮彈頭裡的「火」字，由火雷彈頭改寫而成。

▲スコリア

マクマが火柱となって噴出した時、しづきとなって飛びながら冷えて固まったもの。

山に降り積もった火山灰が雨で一気に木々をなぎ倒して流れ下る現象で、建物や道路を破壊する。

火口から噴出する気体。三宅島の場合、水蒸気の他、二酸化硫黄や硫化水素等が含まれている。

2000年以降噴出量は減少してきている。